



マーチャント・バンカーズ株式会社

会社説明会資料

2010年3月25日(木)

於: 日本証券アナリスト協会会議室

マーチャント・バンカーズ株式会社(証券コード: 3121)

※ 2009年7月1日付でアセット・インベスターズ株式会社より社名を変更いたしました。

目 次

I. 当社の事業概要

1. マーチャント・バンカーズの概要
2. マーチャント・バンカーズの沿革
3. 社名はどのような意味？
4. どのような事業をやっているの？
5. これまでの投資実績を教えてください
6. どのような施設のオペレーションをしているの？
7. 現在の事業展開の柱は何？
8. 事業パートナーの構成・役割は？
9. CIAM社との資本・業務提携の内容を教えてください
10. CIAM社、極楽湯、当社の3社による共同プロジェクトの概要は？
11. フューチャーベンチャーキャピタル株式会社との資本・業務提携の内容を教えてください

II. 業績の推移

1. 2010年3月期 第3四半期連結累計期間 事業の概況
2. 連結損益計算書の概況
 - 2-1. マーチャント・バンキング事業の概況
 - 2-2. ホスピタリティ&ウェルネス事業の概況
3. 連結貸借対照表の概況

I .当社の事業概要



1. マーチャント・バンカーズの概要

社名	マーチャント・バンカーズ株式会社 (英文名 MBK Co.,Ltd.)	
上場市場	大阪証券取引所第2部・福岡証券取引所 証券コード:3121	
本社	東京都千代田区内幸町一丁目1番1号 帝国ホテルタワー	
資本金	2,765百万円	
設立	1947年3月17日	
代表者	代表取締役社長兼COO 森下 将典	
大株主	TOTAL NETWORK HOLDINGS LIMITED	31.72%
	古川 令治	25.38%
	伊藤忠商事株式会社	3.60%



2. マーチャント・バンカーズの沿革

- 1947/3 西日本紡織株式会社(本社福岡県福岡市)設立 繊維事業を開始
- 1949/6 福岡証券取引所に株式上場
- 1961/9 大阪証券取引所第二部に株式上場
- 1967/7 都築紡績株式会社が西日本紡織株式会社の経営継承
- 1979/4 都築紡績株式会社が津島毛糸紡績株式会社と合併 新日本紡績株式会社に社名変更
- 1994/10 熊本県菊池郡泗水町(現菊池市泗水町)に本社移転
- 1996/6 愛知県名古屋市においてオフィスビルの賃貸業を開始
- 1996/9 静岡県浜松市、岐阜県土岐市においてボウリング事業を開始
- 2002/5 国内繊維事業から撤退
- 2003/1 アセット・マネジャーズ株式会社(現アセット・マネジャーズ・ホールディングス株式会社)が親会社となる
- 2003/6 愛知県名古屋市に本社移転
- 2003/7 アセット・インベスターズ株式会社に社名変更 マーチャント・バンキング事業を本格的に開始
- 2004/7 株式会社アセット・オペレーターズを子会社とする ホスピタリティ&ウェルネス事業を開始
- 2006/6 東京都千代田区に本社移転
- 2009/1 第三者割当増資を実施 経営体制を刷新、「新経営戦略」を策定
アセット・マネジャーズ・ホールディングス(株)が親会社でなくなる
- 2009/7 マーチャント・バンカーズ株式会社に社名変更



3. 社名はどういう意味？

社名	マーチャント・バンカーズ株式会社
----	------------------



18世紀末以降の欧州における市場経済形成を支えた
「マーチャントバンク」が由来

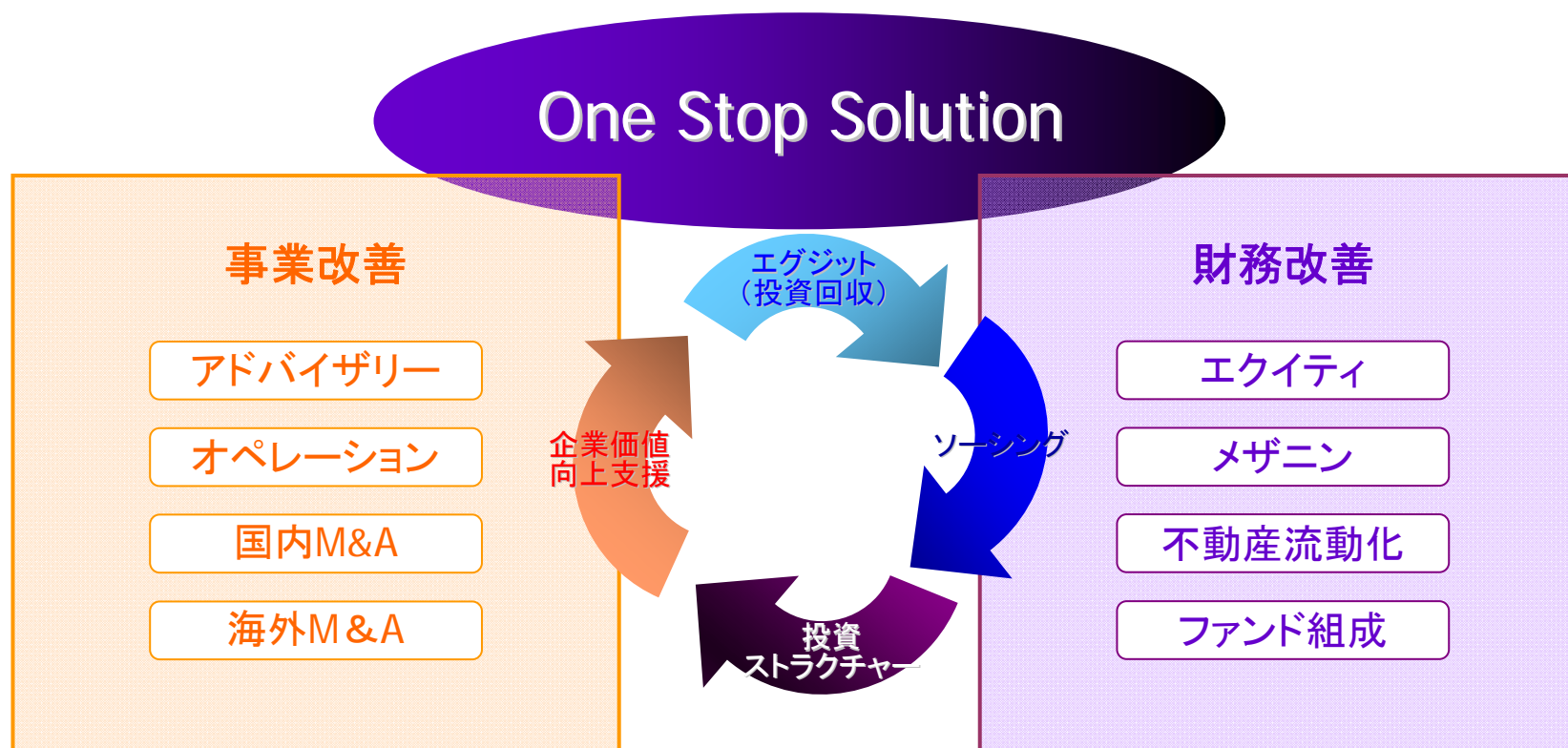
当社は、2009年1月に筆頭株主がアセット・マネジャーズ・ホールディングス株式会社から中国の事業家や投資家からの出資により組成されたファンドであるTOTAL NETWORK HOLDINGS LIMITEDに変わり、2009年7月から、社名をマーチャント・バンカーズ株式会社として新たにスタートいたしました。新しい株主を迎え、当社は東アジア経済圏を中心に事業家の皆様に投融資やM&A等のアレンジメントといった投資銀行業務を提供する会社として事業を展開しております。



4. どのような事業をやっているの？

■ ワンストップ・ソリューション

クライアント企業の皆様に、金融技術を駆使した最適な資金調達のほか、財務改善やM&Aのアドバイザー、中国など海外進出のお手伝い、事業用不動産のオペレーションといった、企業価値および不動産価値の向上のための様々なソリューションを、ワンストップでご提供いたします。



5. これまでの投資実績を教えてください

アジア経済圏の優良・成長企業に対するファイナンス支援、M&Aアレンジメントにとどまらず、当社事業とのシナジー追求など事業面の様々な支援を合わせて図っていくことにより、顧客企業の価値向上を図ることを目指してきました。

 <p>ワイズテーブル 飲食店舗ブランドと不動産 開発事業のシナジー追求</p>	 <p>極楽湯 スーパー銭湯「極楽湯」の 運営・フランチャイズ事業 展開を支援</p>	 <p>キムラヤ インポートブランドショッ プへ転換。客層に合わせ新 業態開発</p>	 <p>ホテル日航茨木大阪 旧京都ホテルをJALブランド に転換し再生支援</p>
 <p>Power Quotient Inter'l 台湾のPC周辺・メモリを製 造している上場企業。</p>	 <p>eSun Holdings 海外不動産開発で連携し同 社企業価値向上を支援。</p>	 <p>China Medical Technologies 癌治療機器メーカー。2005 年8月に米Nasdaq上場</p>	 <p>Wasion Meters Group Limited 電力メーターの開発・製 造・販売。2005年12月に香 港証券取引所上場。</p>
 <p>CN Innovations Holdings Limited 金属コーティング加工メー カー。時計および携帯電話 機向けに注力。</p>	 <p>China Code Blood Corporation 中国において脐帯血バンク 事業および細胞療法事業を 行う。NYSE上場。</p>	 <p>Horizon Fuel Cell Technologies Pte. Ltd. 水素燃料電池メーカー。小 型携帯用、軽量輸送へ応用。</p>	 <p>Golden Harvest Entertainment (Holdings) Limited 香港の映画制作を手がける 上場企業。</p>

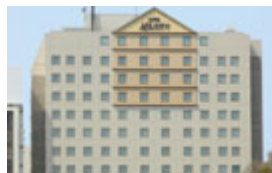
6. どのような施設のオペレーションをしているの？

「顧客の立場に立って、心を込めて、喜びと満足を感じ取っていただけるサービスの実現」をモットーとしてホテル事業、指定管理受託事業、並びにアミューズメント事業を10事業所で展開しております。

■ ホテル事業



ホテル日航茨木 大阪



HOTEL
JALCITY 松山

■ 指定管理事業



水月花
HOTEL SUIGEKKA



たつのパークホテル
TATSUNOKUNI
PARK HOTEL

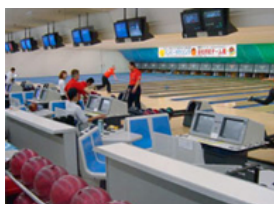


国民宿舎 千畳苑
国民宿舎 千畳苑



あらふねりリゾート
串本町国民宿舎

■ アミューズメント事業



土岐グランドボウル



AMPLEX 坂東
AMPLEX
amusement complex



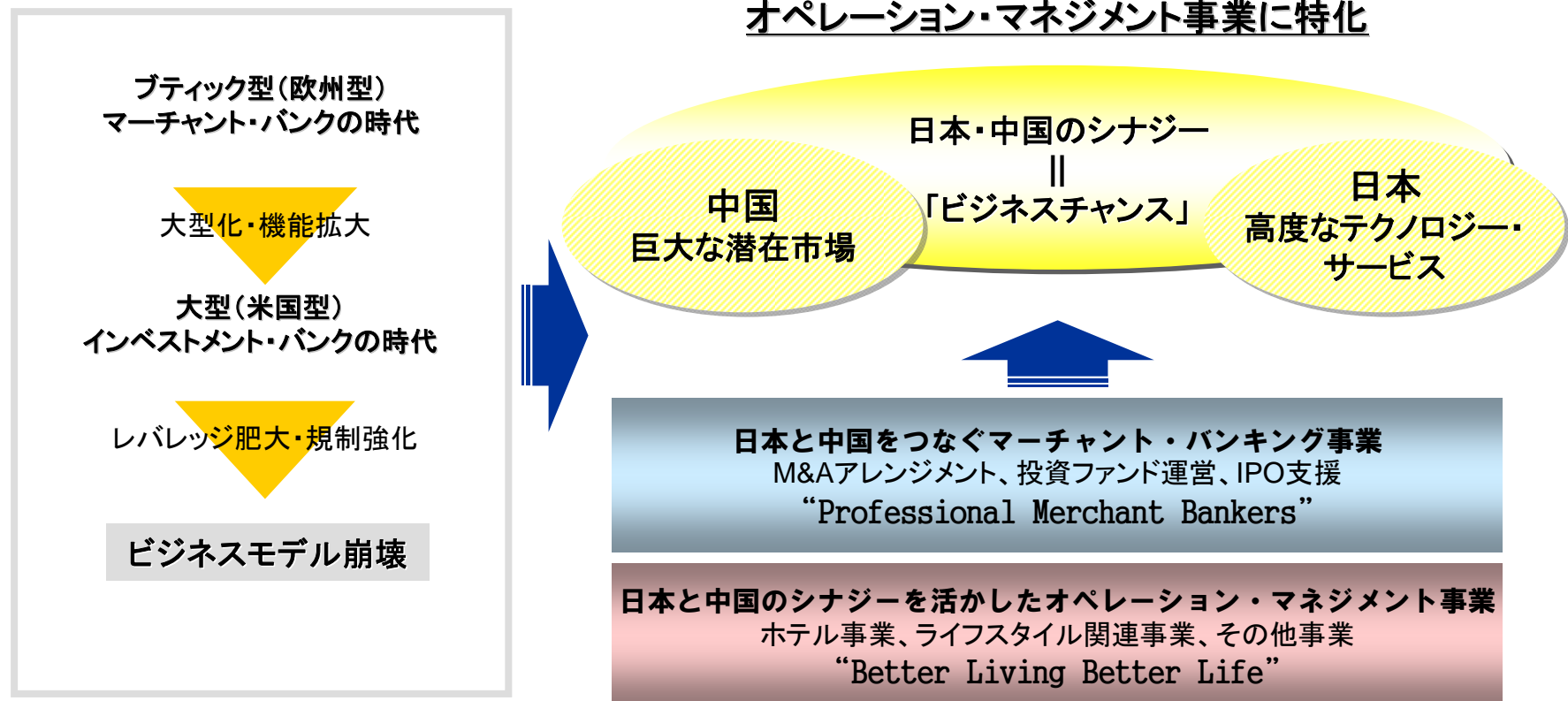
忍頂寺スポーツ公園 竜王山荘
Nincho temple sports park RYUO-SANSO



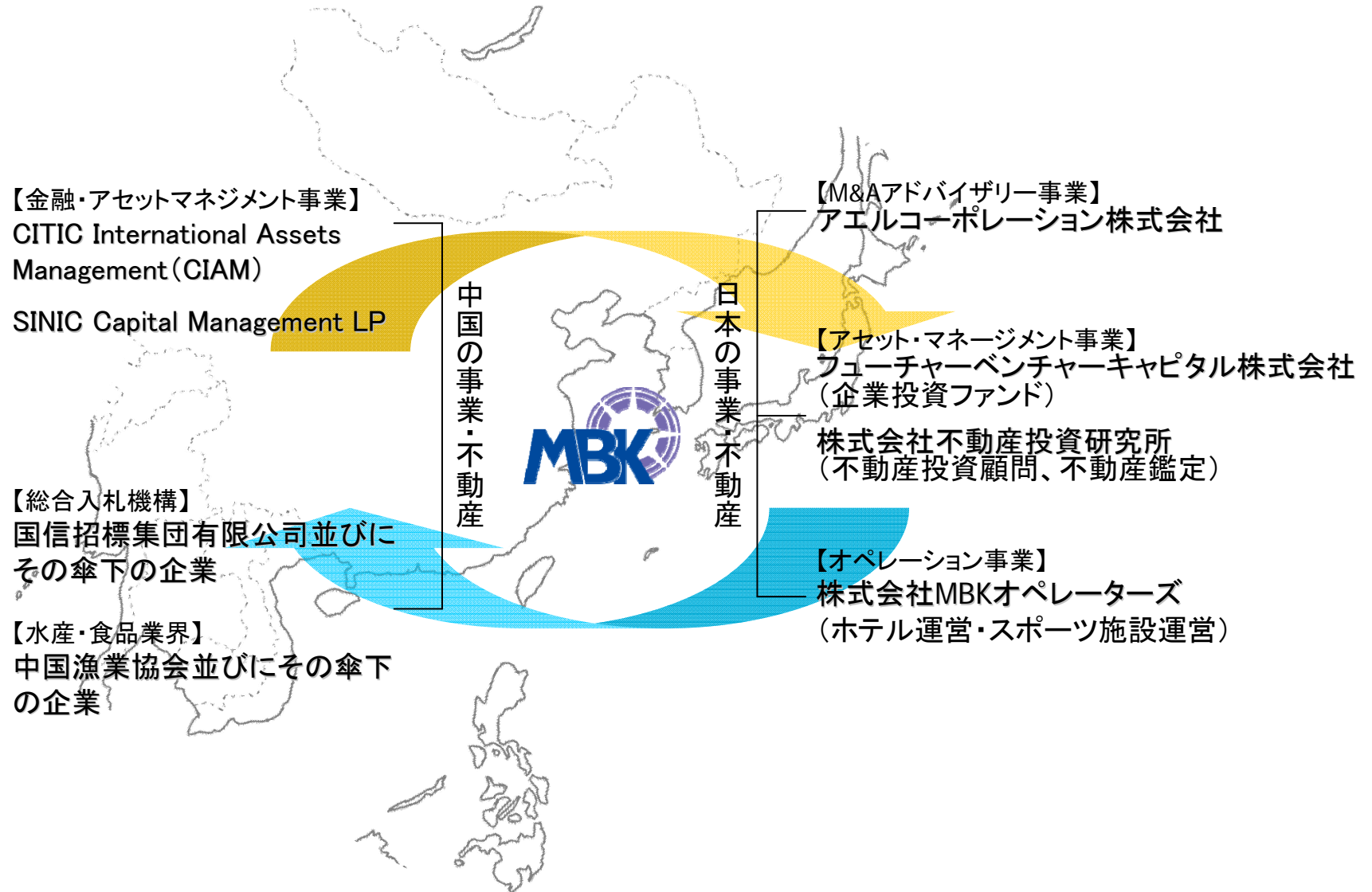
西宮市
スレラホール

7. 現在の事業展開の柱は何？

米国発の金融危機により大型インベストメント・バンクのビジネスモデルが崩壊したなかで、日中に特化した金融市場のニーズを満たす「ブティック型マーチャントバンク」事業をコア事業として成長戦略を推進いたします。



8. 事業パートナーの構成・役割は？




9. CIAM社との資本・業務提携の内容を教えてください


中国最大手の政府系金融グループであるCITICグループの投資運用会社CIAM社と資本・業務提携を締結、2009年9月2日付でCIAM社を割当先とする新株予約権を発行いたしました。

(注)CIAM社はCITIC International Assets Management Limitedの略称です。

業務提携



CITIC International Assets Management Limited
中信國際資產管理有限公司



(提携内容)

- (1) 日中間のクロスボーダーのM&A 並びに投資を共同して展開すること
- (2) 日中の金融・投資業界の情報等を相互に交換・共有すること
- (3) 日中双方の投資家を相互に紹介すること、及びファンド組成の協力
- (4) 定期的に戦略会議を行い、相互の業務提携を進展させるべく努力すること

資本提携

大株主(2009年9月30日現在)

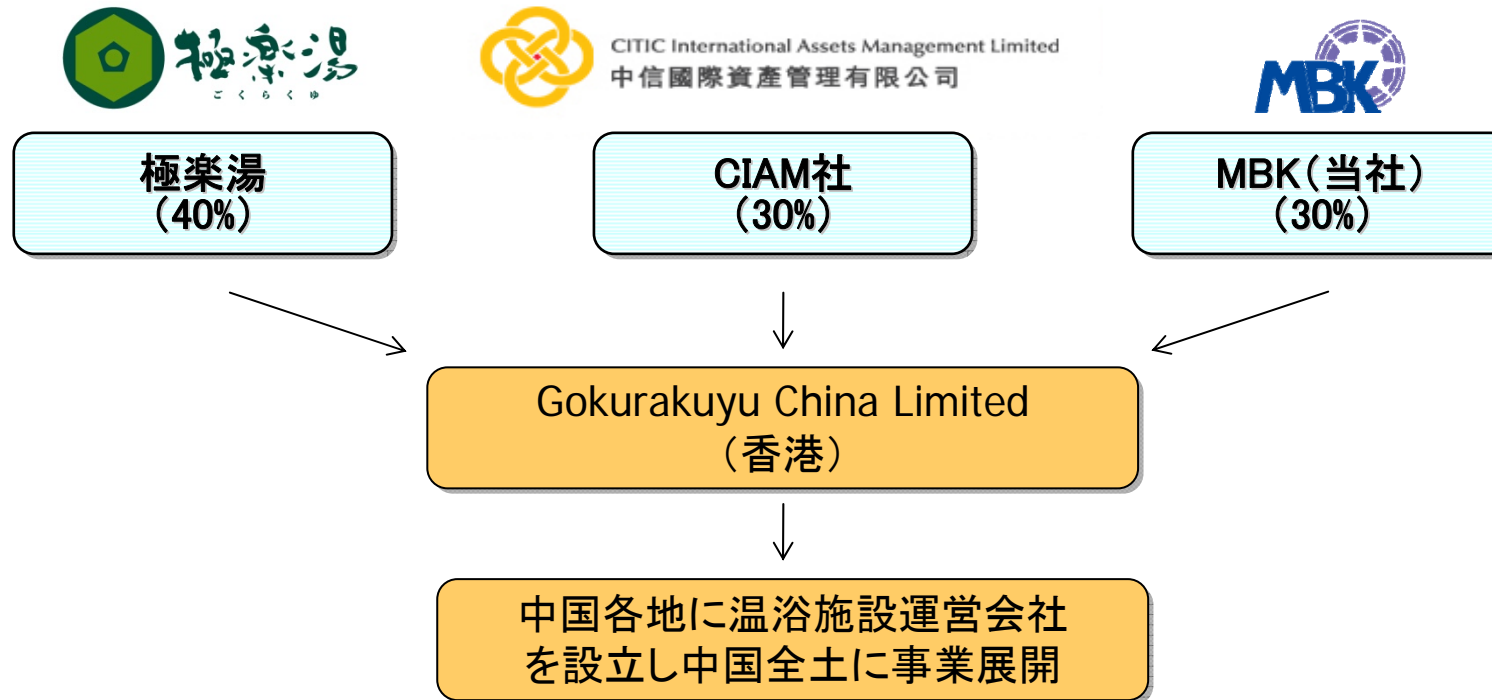
株主	株数 (千株)	持分比率
TOTAL NETWORK HOLDINGS LIMITED	71,429	31.72%
古川 令治	57,143	25.38%
伊藤忠商事株式会社	8,100	3.60%

新株予約権(2009年9月2日発行)

割当先	株数 (千株)	発行済株式総数 に対する比率
CITIC International Assets Management Limited (CIAM社)	11,000	4.66%

(注)新株予約権11,000千株のうち1,000千株は行使済みです。

10. CIAM社、極楽湯、当社の3社による共同プロジェクトの概要は？

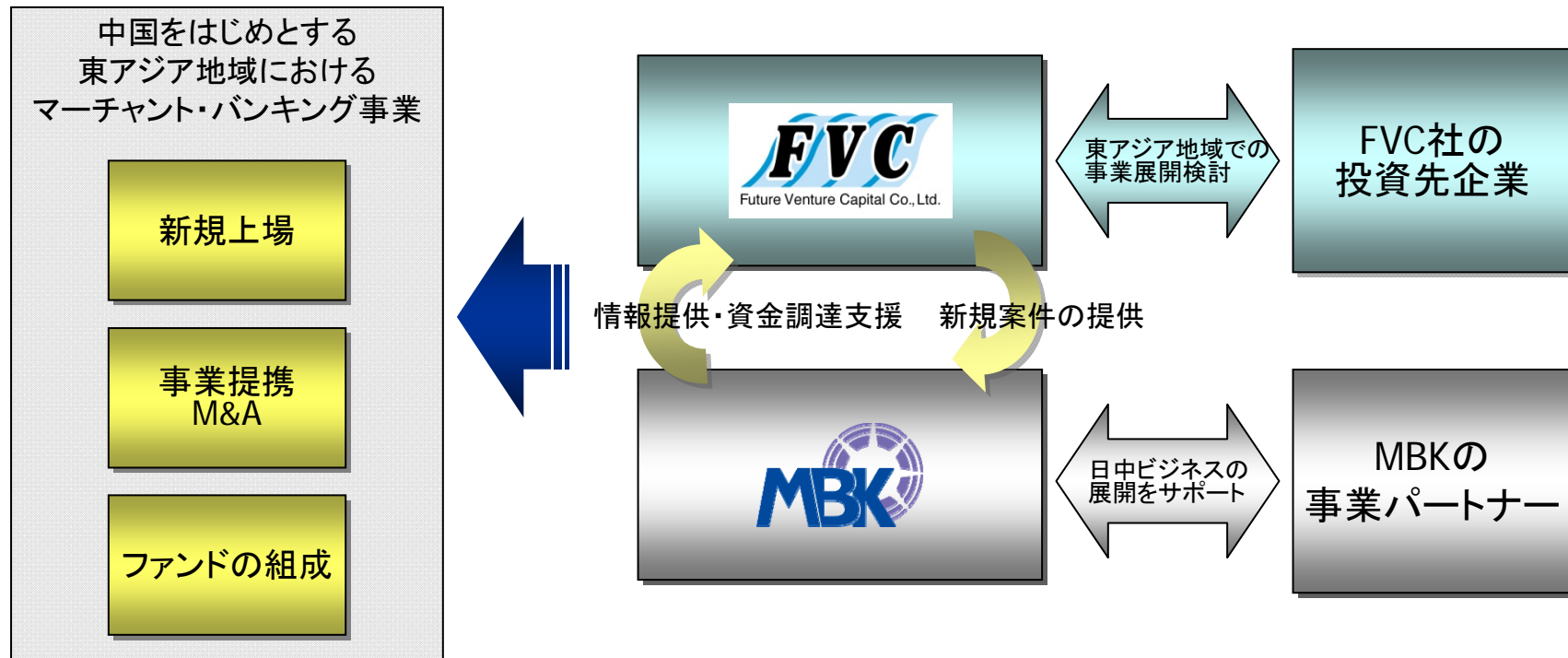


CIAM社、極楽湯、当社の3社共同による、中国における温浴事業を展開するための合弁会社を設立いたしました。合弁会社の名称は「Gokurakuyu China Limited」とし、今後はこの合弁会社を中心として出店地域の選定、店舗設計、人材の確保・研修等の準備を進めてまいります。

11. フューチャーベンチャーキャピタル株式会社との資本・業務提携の内容を教えてください

当社は平成21年12月25日付でフューチャーベンチャーキャピタル株式会社(大証ヘラクレス8462、以下、FVC社)の第三者割当による新株式発行を引受け同社と資本関係を構築するとともに、平成22年1月28日付でFVC社と業務提携契約を締結し、FVC社と協働して中国をはじめとする東アジア地域におけるマーチャント・バンキング事業の強化を進めております。

FVC社は、ベンチャーキャピタルとして200社に及ぶベンチャー企業に出資しており、当社は、FVC社との業務提携を通じて、これらの投資先企業に対し、中国などでの事業展開、新規上場などといった価値向上の支援実施を図り、将来的には、ベンチャー投資ファンドの募集活動を行ってまいりたいと考えております。



Ⅱ.業績の推移

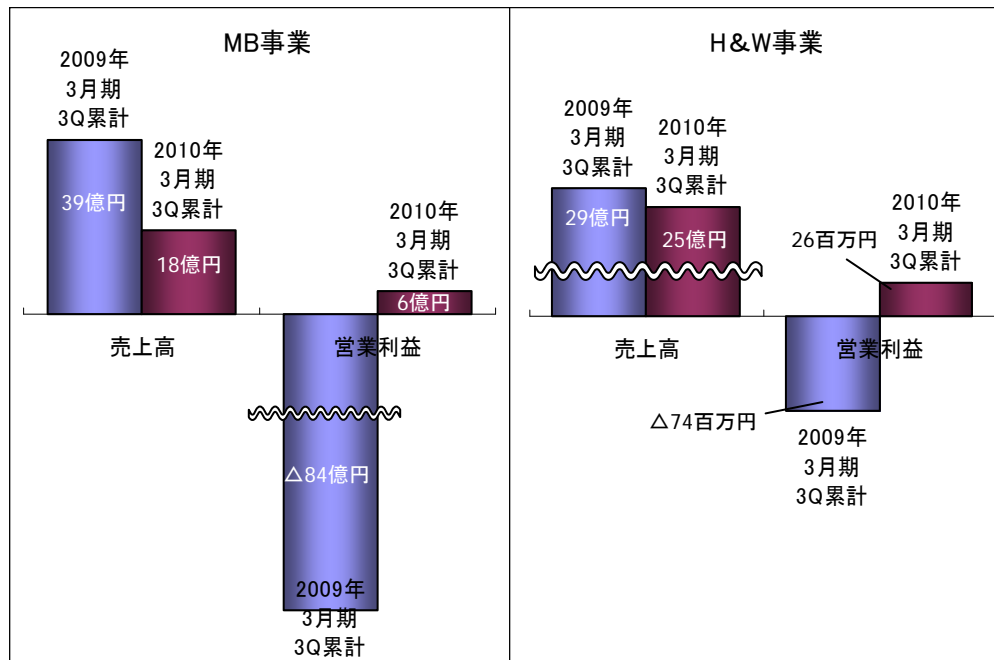


1. 2010年3月期 第3四半期連結累計期間 事業の概況

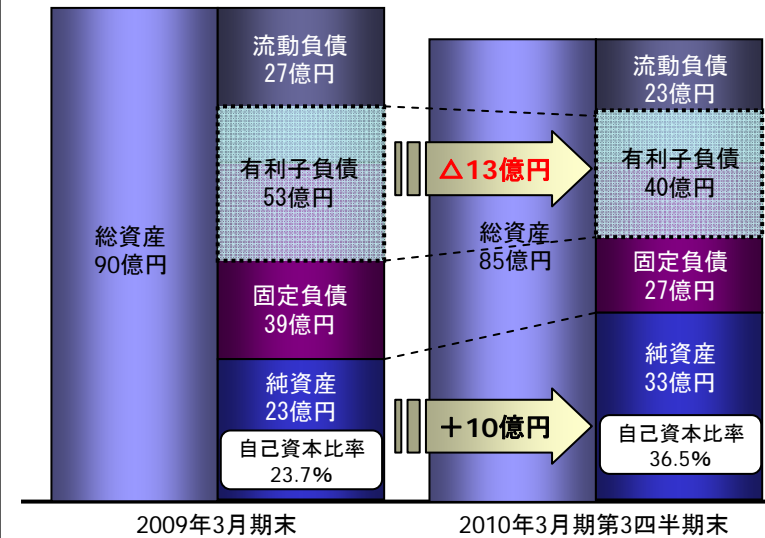
■ 黒字転換と財務体質の健全化

- MB事業は計画通り推移している他、H&W事業も厳しい環境下ながらも2Q以降黒字を確保し、両セグメントとも黒字転換を果たす
- 純資産の大幅な増加により3Q末自己資本比率は36.5%(前期末23.7%)に改善
- 前期末にあった「重要事象等」は1Q時点で解消

(注)MB事業はマーチャント・バンキング事業の、H&W事業はホスピタリティ&ウェルネス事業の略称です。



有利子負債の削減及び純資産の改善状況(前期末との比較)



- ・第2四半期累計で、有利子負債13億円圧縮
- ・自己資本比率は23.7%から36.5%に、流動比率は168.3%から170.7%に改善



2. 連結損益計算書の概況

国内外の投資案件の回収が3Qにおいても順調に進捗し、着実に黒字を積み上げ

(単位:百万円)	09/3期 3Q累計	10/3期 3Q累計①	前年同期比 増減	10/3期 通期見込②	進捗率 ①/②
売上高	6,667	4,244	△2,423	6,500	65.3%
MB事業	3,924	1,861	△2,063	3,300	55.0%
H&W事業	2,961	2,529	△432	3,200	79.0%
売上総利益	△6,701	2,359	9,060	3,400	69.4%
一般管理費及び販売費	2,698	1,943	△755	2,800	69.4%
営業利益	△9,399	416	9,815	720	57.8%
MB事業	△8,366	644	9,008	650	99.1%
H&W事業	△74	27	101	70	38.5%
経常利益	△9,600	313	9,913	600	52.2%
四半期(当期)純利益	△9,187	353	9,540	610	57.0%
EPS(円)	△111.84	1.57	113.41	2.71	57.9%

(注) 事業セグメントごとの売上高及び営業利益は、内部消去前・全社費用加算前の数値を記載しております。

- 投資回収がほぼ当初の予定通り進捗し3Qの売上高は4,244百万円となる。なお、売上高が前年同期比2,423百万円減となったが、これは前年同期において大幅な資産処分を実施したことによる。
- 国内企業投資の回収益121百万円があったことなどにより、売上総利益は2,359百万円と前年同期の売上総損失6,701百万円から大幅に改善。
- 一般管理費及び販売費は1,943百万円(前年同期比755百万円減)となり、グループあげての徹底したコスト圧縮を実現。
- 売上総利益の確保と販管費の削減効果により、営業利益416百万円、経常利益313百万円、四半期純利益353百万円と黒字回復。



2-1. マーチャント・バンキング事業の概況

【 マーチャント・バンキング事業の売上高・売上総利益・営業利益 】

(単位:百万円)	09/3期 3Q累計	10/3期 3Q累計	前年同期 比増減
売上高	3,924	1,861	△2,063
国内企業投資事業	1,394	336	△1,058
海外企業投資事業	1,328	1,049	△279
不動産投資事業	629	197	△432
ストラクチャード・ファイナンス事業	73	1	△72
アドバイザリー・ファンドAM事業	34	27	△7
不動産賃貸事業	466	253	△213
売上総利益	△8,366	649	9,015
国内企業投資事業	△5,004	121	5,125
海外企業投資事業	△928	399	1,327
不動産投資事業	△1,053	34	1,087
ストラクチャード・ファイナンス事業	△1,537	1	1,538
アドバイザリー・ファンドAM事業	34	26	△8
不動産賃貸事業	121	68	△53
営業利益	△8,437	644	9,081

- 前年同期は営業投資資産の評価損及び売却損を計上したことから大幅な営業損失を計上。
- 当第3四半期累計期間は国内・海外の企業投資の回収益が収益を牽引。



2-2. ホスピタリティ&ウェルネス事業の概況

【 ホスピタリティ&ウェルネス事業の売上高・売上総利益・営業利益 】

(単位:百万円)	09/3期 3Q累計	10/3期 3Q累計	前年同期 比増減
売上高	2,961	2,528	△433
ホテル事業	2,550	2,253	△297
アミューズメント事業	389	256	△133
その他	22	20	△2
売上総利益	1,882	1,670	△212
ホテル事業	1,911	1,708	△203
アミューズメント事業	△30	△41	△11
その他	2	3	1
営業利益	△74	26	100

- 売上高2,528百万円(前年同期比433百万円減)、売上総利益1,670百万円(前年同期比212百万円減)となり、ともに前期比減少
 - ホテル事業は、新型インフルエンザ問題の影響により一部ホテルの宿泊利用が一時的に落ち込んだことや、長引く景気低迷により、売上総利益が前年同期比203百万円減少
 - アミューズメント事業は、前期に行ったボウリング場(1カ所)及びバッチングセンター(2カ所)の撤退の影響により、売上総利益が11百万円減少
- 減収の一方で、公営施設の受託事業が黒字転換したことや大幅な経費圧縮の効果により、前年同期比100百万円改善の営業利益26百万円となる。



3. 連結貸借対照表の概況

四半期純利益353百万円の計上と、保有資産の時価上昇により、自己資本比率が23.7%(09/3)から36.5%(09/12)に改善

(単位:百万円)	09/3期 期末	10/3期 3Q末	構成比	前期末 比増減
流動資産	4,559	4,074	47.9%	△485
現預金	601	600	—	△1
受取手形及び売掛金	137	127	—	△10
① 企業投資等	3,112	3,030	—	△82
② 不動産投資	443	99	—	△344
その他流動資産	264	216	—	△48
固定資産	4,460	4,432	52.1%	△28
有形固定資産	4,048	4,158	—	110
無形固定資産	8	6	—	△2
投資その他資産	403	267	—	△136
資産合計	9,020	8,506	100%	△514
流動負債	2,709	2,386	28.1%	△323
短期借入金	850	842	—	△8
④ 1年内返済長期借入金	976	788	—	△188
③ その他流動負債	881	754	—	△127
固定負債	3,941	2,772	32.6%	△1,169
④ 長期借入金	2,892	1,825	—	△1,067
社債	600	600	—	—
その他固定負債	448	346	—	△102
純資産	2,369	3,346	39.3%	977
⑤ 株主資本	2,409	2,798	32.9%	389
⑥ 評価・換算差額等	△272	304	3.5%	576
新株予約権	49	65	0.7%	16
少数株主持分	181	178	2%	△3
負債・純資産合計	9,020	8,506	100%	△514

- ① 企業投資が、投資先の新規上場及び保有上場株式の時価上昇により増加した一方で、投資回収による減少があり、NETで82百万円減少
 ② 不動産投資が、投資回収により減少した129百万円、保有目的変更による固定資産への振替214百万円などにより344百万円減少
 ③ 前期末に預り金とした投資回収資金327百万円について、1Qに収益認識したため、その他流動負債が127百万円減少
 ④ 長期借入金(1年内返済分を含む)が約定弁済が進んだことにより1,255百万円減少
 ⑤ 四半期純利益353百万円、新株予約権行使の払込金額40百万円などにより株主資本が389百万円増加
 ⑥ 資産の時価上昇による評価・換算差額等の増加576百万円。⑤と合わせて純資産が977百万円増加





【お問い合わせ先】

マーチャント・バンカーズ株式会社 社長室

TEL:03-3502-4910 FAX:03-3502-4915

E-mail: info@mbkworld.co.jp U R L : <http://www.mbkworld.co.jp/>

本資料に記載されている計画・戦略・見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待・見積もり・予想に基づいています。これらの期待・見積もり・予想は、経済情勢や競争環境の変化等の潜在的リスク・不確実な要素、仮定の影響を受けますので、実際の実績は見通しから大きく異なる可能性があります。従ってこれらの将来予想に関する記述に全面的に依拠することは差し控えるようお願いいたします。また、当社は新しい情報・将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する責務を負うものではありません。

